



3世紀頃のパウロの
手紙写し(パピルス)

手紙

シリーズ～福音となったイエス～

2026・7・19

新約聖書には「手紙」が多い

- 新約聖書のうち7／9は手紙

- イエスの伝記4・言行録1・手紙21・黙示文学1

- ページ数だと2／5

- 最も古く、最も多くの人たちに読まれている手紙

- ローマ時代の手紙事情

- ローマ帝国には国家郵便制度があり、皇帝の命令、軍事情報、税収の運搬などに使われた

- 一般の人たちは旅人は商人に託すしかなかった

- 日本の郵便事情

- 明治4年に前島密の提言により始まった

- それ以前は「飛脚」が運んでいた

使徒パウロの手紙

- 新約聖書の21通中、13通がパウロの手紙
 - 9通が教会宛て、4通が個人宛て
- パウロは目が悪く筆記者を頼むことがあった
 - 「この手紙を筆記したわたしテルティオが…」ローマ16:22
 - 「このとおり、わたしは今こんなに大きな字で、自分の手であなたがたに書いています。」ガラテヤ6:11
- パウロの手紙は信徒たちが運んだ
 - ローマ: **フェベ** (女性執事)、コリント: **テトス**、エフェソ・コロサイ: **ティキコ**、フィリピ: **エパフロディト**、テサロニケ: **テモテ**

使徒パウロの手紙

•教会宛て

- ローマ**:行ったことのないローマの教会に「信仰による救い」を教えた手紙
- コリント・ガラテヤ・テサロニケ**:宣教旅行で訪ねた地域の教会に対する教えの手紙
- エフェソ・コロサイ・フィリピ**:軟禁状態にあったパウロが、大切な教会に送った手紙(「獄中書簡」)

•個人宛

- テモテ・テトス**:パウロの弟子たちを励ます手紙
- フィレモン**:脱走奴隷オネシモを主人のもとへ送り返すときに持たせた手紙

使徒パウロの手紙

- 教会宛て

- ローマ: 行ったことのないローマの教会に「信仰による救い」

- コリント: これらの手紙は書き写され、方ねた教会や信徒たちの間で共有され、保存された。

- エフェソ: やがて新約聖書の一部となって世界中で読まれることとなった。

- 個人宛

- テモテ: 手紙

- フィレモン: 脱走奴隷オネシモを主人のもとへ送り返すときに持たせた手紙

フィレモンへの手紙(抜粋)

キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する協力者**フィレモン**、…

年老いて、今はまた、キリスト・イエスの囚人となっている、このパウロが。監禁中にもうけたわたしの子オネシモのことで、頼みがあるのです。彼は、以前はあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにもわたしにも役立つ者となっています。わたしの心であるオネシモを、あなたのもとに送り帰します。本当は、わたしのもとに引き止めて、福音のゆえに監禁されている間、あなたの代わりに仕えてもらってもよいと思ったのですが、

あなたの承諾なしには何もしたくありません。それは、あなたのせっかくの善い行いが、強いられたかたちでなく、自発的になされるようにと思うからです。恐らく彼がしばらくあなたのもとから引き離されていたのは、あなたが彼をいつまでも自分のもとに置くためであったかもしれませんが、その場合、もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟としてです。オネシモは特にわたしにとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、一人の人間としても、主を信じる者としても、愛する兄弟であるはずです。だから、わたしを仲間と見なしてくれるのでしたら、オネシモをわたしと思って迎え入れてください。

彼があなたに何か損害を与えたり、負債を負ったりしていたら、それはわたしの借りにしておいてください。**わたしパウロが自筆で書いています。****わたしが自分で支払いましょう。**あなたがあなた自身を、わたしに負っていることは、よいとしましょう。そうです。兄弟よ、主によって、あなたから喜ばせてもらいたい。キリストによって、わたしの心を元気づけてください。あなたが聞き入れてくれると信じて、この手紙を書いています。わたしが言う以上のことさえもしてくれるでしょう。

手紙の相手と目的

- 挨拶と宛て先

- 自らを「キリスト・イエスの囚人」と呼ぶパウロ
- 「わたしたちの愛する協力者フィレモン」：おそらくコロサイ教会の信徒

- オネシモについてのお願い

- 「監禁中にもうけたわたしの子オネシモのこと」
- 監禁中のパウロによって新しく生まれた

- オネシモを送り返す

- 「わたしの心であるオネシモを、あなたのもとに送り帰します。」

オネシモを受け入れてほしい

- 脱走奴隷？であったオネシモ

- 「恐らく彼がしばらくあなたのもとから引き離されていたのは、あなたが彼をいつまでも自分のもとに置くためであったかもしれません。」

- 役立つものとなったオネシモ

- 「彼は、以前はあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにもわたしにも役立つ者となっています。」

- 彼を主にある兄弟として受け入れて欲しい

- 「だから、わたしを仲間と見なしてくれるのであれば、オネシモをわたしと思って迎え入れてください。」

- 「もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟としてです。」

オネシモの負債を引き受ける

- オネシモがフィレモンに与えた損害・負債

- 「彼があなたに何か損害を与えたり、負債を負ったりしていたら、それはわたしの借りにしておいてください。わたしパウロが自筆で書いています。わたしが自分で支払いましょう。」

- フィレモンもパウロに霊的負債を負っている

- 「あなたがあなた自身を、わたしに負っていることは、よいとしましょう。」
- 「そうです。兄弟よ、主によって、あなたから喜ばせてもらいたい。キリストによって、わたしの心を元気づけてください。」

イエス様が神に宛てた手紙？

- 脱走奴隷オネシモは私たちの代表
 - 私たちは雇い主（造り主）である神様のもとから逃げ出し、各々勝手な道に向かった
- イエス様は私たちの払うべき負債を十字架で払ってくださった
 - 私たちには神様への負債を払い能力はない
 - イエスは私たちを「役に立つ者」と言ってくださる
- この手紙（聖書）を手に神のもとに帰る
 - 「だから、わたしを仲間と見なしてくれるのであれば、オネシモをわたしと思って迎え入れてください。」

日本一有名な手紙

- 「日本一短い手紙」

- 「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」

- 徳川家康の家臣・本多作左衛門重次が陣中から妻に宛てて送った短い手紙

- 「火事に気を付けて、(嫡男の)仙千代の面倒をよく見、馬の世話を怠るな」の意

- 仙千代は長じて本多成重と名乗り、越前(福井県)丸岡城の城主となる

- 「一筆啓上賞」

- 福井県坂井市にある「日本一短い手紙の館」では、毎年40文字までの手紙を募集している



越前丸岡城

<現存12天守>



「失敗・成功」

「天国のママ」へ

漢字テスト「手紙」を「毛紙」と書いた。
ばあばが温かい手紙だね
と笑ってくれた。

石川県 山口 結衣 8歳

「6歳の息子」へ

車に傷を付けた私に

「ママすごいよ！流れ星みたい」って。
傷、そのままにしておくね。

愛知県 岡 桃子 34歳

「失敗・成功」

聖書は神様からの手紙
長～いけれど、
言いたいことは一つ
I love you!

「天国の
漢字テ
ばあば
と笑つて
「6歳の
車に傷
「ママす
傷、そのま

ままにしておくね。

「い」って。

和衣 8歳

と書いた。

愛知県 岡 桃子 34歳